

「女性の活躍」に関する意識調査

20～39歳未婚女性の46.1%は、「子どもを産んだ後も仕事をしたい」と回答。

「女性の活躍」のために必要なこと一産休・育休・短時間勤務等の充実と、職場復帰しやすい仕組み作り。

安倍政権はアベノミクスの柱の一つとして、「女性の活用」を掲げている。欧米諸国と比べて女性の幹部起用が遅れていると言われる日本だが、女性の幹部・管理職を増やす上で課題となるのが、仕事と家庭の両立だ。実際のところ、女性たちは、仕事と結婚・出産についてどのように考えているのだろうか。

今回、オウチーノ総研(株式会社オウチーノ/本社:東京都港区/代表:井端純一)は、20～39歳の未婚女性443名と、子どもがいる40～65歳の既婚女性663名を対象に『仕事と結婚・出産』に関するアンケート調査を行った。まず、「仕事で『管理職』になりたいと思っていますか?」と聞いたところ、未婚・既婚子持ち女性ともに「になりたい」と回答したのは10%未満だった。次に、20～39歳未婚女性に、「あなたは、仕事と結婚・出産についてどう考えますか?」という質問をしたところ、46.1%は、「出産後も仕事をしたい」と回答し、「結婚・出産後は仕事をやめたい」と回答したのは19.2%だった。一方で、40～65歳既婚子持ち女性の51.4%が「結婚・出産を機に仕事をやめた」と回答した。

■調査概要

有効回答 20～39歳の未婚女性443名、子どもがいる40～65歳の既婚女性663名

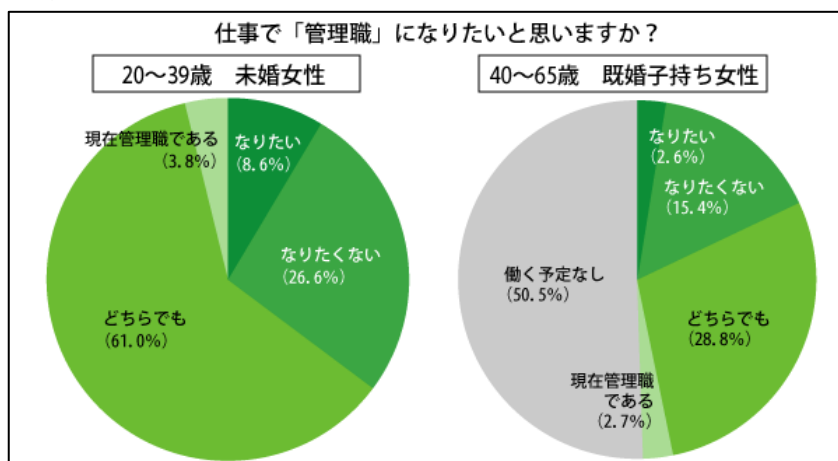
調査方法 インターネットによるアンケート調査

調査期間 2014年9月26日(金)～9月29日(月)

1. 「『管理職』になりたい」と考える女性は、10%未満。

まず、仕事で「管理職」になりたいと思っているか聞いてみた。

20～39歳未婚女性は、「になりたい」と答えた人が8.6%、「なりたくない」が26.6%、「どちらでも」が61.0%、「現在管理職である」が3.8%だった。一方、40～65歳既婚子持ち女性は、「になりたい」と答えたのが2.6%、「なりたくない」が15.4%、「どちらでも」が28.8%、「現在管理職である」が2.7%、「働く予定なし」が50.5%だった。「働く予定なし」を除くと、



「なりたくない」が5.2%、「なりたくない」が31.1%、「どちらでも」が58.2%、「現在管理職である」が5.5%だった。未婚・既婚に関わらず、管理職願望を持っている人は10%未満とごくわずかだった。

「なりたい」と思っている人の理由としては、20～39歳未婚女性では「給料が上がるから」(34歳)が最も多く、他には「会社に勤めている以上は目標だから」(37歳)、「レベルアップしたいから」(26歳)などが挙げられた。40～65歳既婚子持ち女性では、「責任のある立場で業務を行い、給与面でも満足したいから」(43歳)や「仕事をするうえで、やりがいがあるから」(58歳)などが挙げられた。一方、「なりたくない」と思っている人の理由としては、20～39歳未婚女性、40～65歳既婚

■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。■

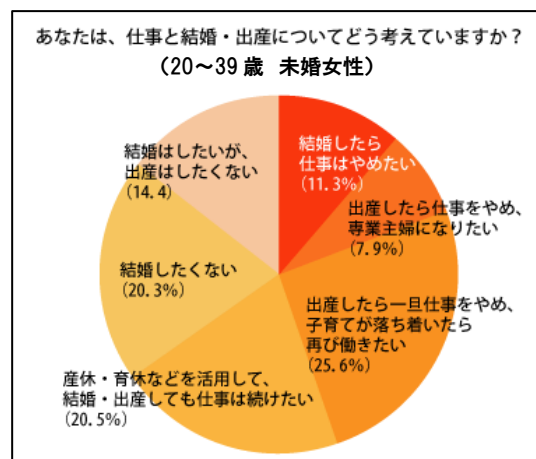
株式会社 オウチーノ(オウチーノ総研/清水) 〒105-0021 東京都港区東新橋2-14-1 コモディオ汐留
 <TEL:03(5776)1746 FAX:03(5776)1747 E-MAIL:soken@o-uccino.jp>

子持ち女性の両グループとも、「責任のある立場につきたくない」(29歳)という回答が最も多く、「管理職になる器ではないから」(54歳)という回答が2番目に多かった。40～65歳既婚子持ち女性で3番目に多く挙げたのは、「家庭との両立ができないから」(41歳)という回答だった。

2. 20～39歳未婚女性の46.1%は、「子どもを産んだ後も仕事をしたい」と回答。

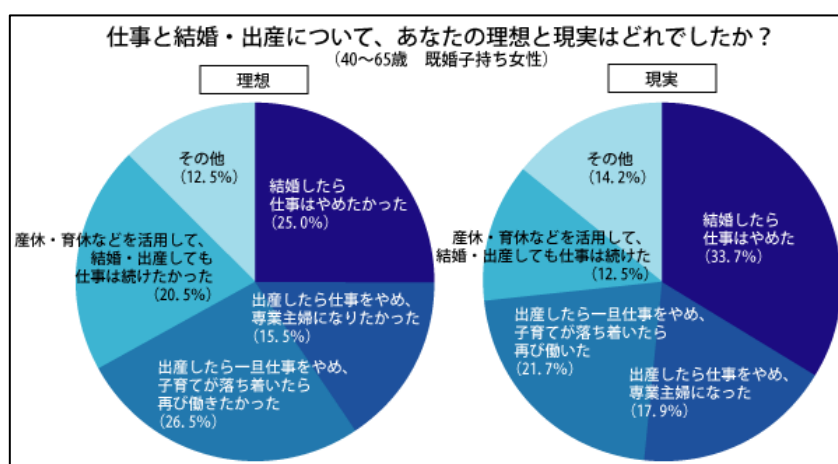
次に、20～39歳未婚女性に、「あなたは、仕事と結婚・出産についてどう考えますか?」という質問をした。「結婚したら仕事はやめたい」と回答した人は11.3%、「出産したら仕事をやめ、専業主婦になりたい」が7.9%、「出産したら一旦仕事をやめ、子育てが落ち着いたなら再び働きたい」が25.6%、「産休・育休などを活用して、結婚・出産しても仕事は続けたい」が20.5%、そして「結婚したくない」が20.3%、「結婚はしたいが、出産はしたくない」が14.4%だった。46.1%は「子どもを産んだ後も仕事をしたい」と回答した。結婚・出産願望がある人のみに限ると、「結婚したら仕事はやめたい」が17.3%、「出産したら仕事をやめ、専業主婦になりたい」が12.1%、「出産したら一旦仕事をやめ、子育てが落ち着いたなら再び働きたい」が39.1%、「産休・育休などを活用して、結婚・出産しても仕事は続けたい」が31.5%だった。割合としてもっとも大きかったのは「出産したら一旦仕事をやめ、子育てが落ち着いたなら再び働きたい」だった。

「出産したら一旦仕事をやめ、子育てが落ち着いたなら再び働きたい」と「産休・育休などを活用して、結婚・出産しても仕事は続けたい」を選んだ理由は、ともに「お金が必要だから」(23歳)が最多だった。2番目に多かったのは、「産休・育休などを活用して、結婚・出産しても仕事は続けたい」の場合は「子どもが小さいうちは育児に専念したいから」(28歳)だった。「産休・育休などを活用して、結婚・出産しても仕事は続けたい」の場合は、「好きな仕事を続けたいから」(35歳)や「今の仕事にやりがいを感じるから」(39歳)など、今の仕事を辞めたくない、という回答だった。



3. 40～65歳既婚子持ち女性の51.6%が「結婚・出産を機に仕事をやめた」と回答。

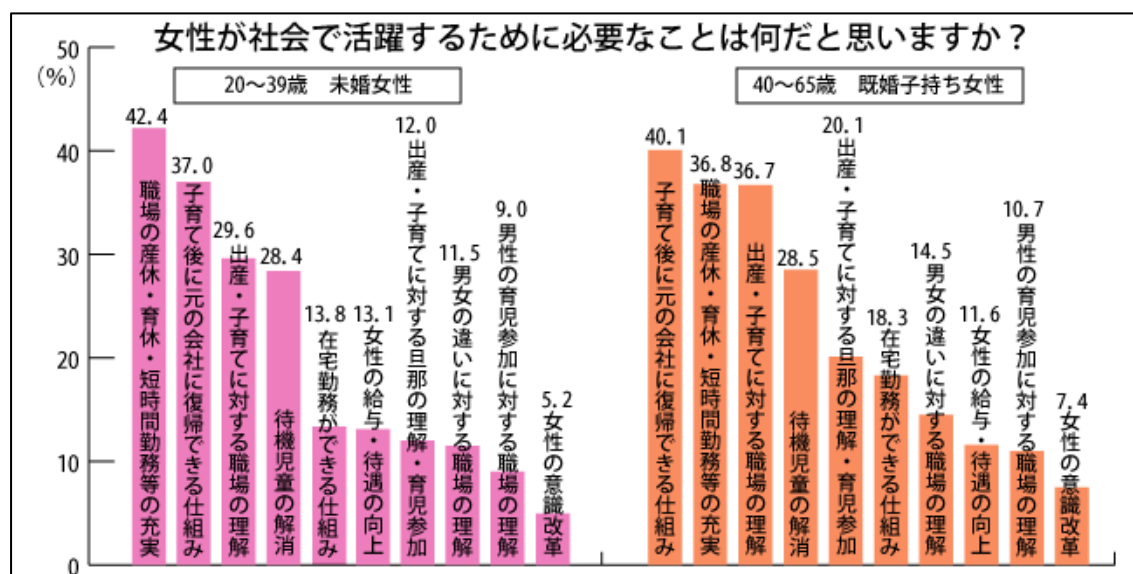
今度は、40～65歳の既婚子持ち女性に、仕事と結婚・出産についての理想と現実を聞いた。まず、結婚する前に「結婚したら仕事はやめたい」と考えていた人は25.0%、「出産したら仕事をやめ、専業主婦になりたい」が15.5%、「出産したら一旦仕事をやめ、子育てが落ち着いたなら再び働きたい」が26.5%、「産休・育休などを活用して、結婚・出産しても仕事は続けたい」が20.5%だった。それに対し実際のところは、「結婚したら仕事はやめた」という人が



33.7%、「出産したら仕事をやめ、専業主婦になった」が17.9%、「出産したら一旦仕事をやめ、子育てが落ち着いたなら再び働いた」が21.7%、そして「産休・育休などを活用して、結婚・出産しても仕事は続けた」が12.5%だった。

47.0%が結婚前に「出産した後も仕事をしたい」と考えていたのに対し、実際に出産後も仕事をしている人は34.2%だった。一方、「結婚・出産したら仕事をやめたい」と考えていた人は40.5%だったのに対し、実際には51.6%と過半数が結婚・出産を機に仕事をやめたことが分かった。

4. 女性が考える「女性の活躍」のために必要なこと一産休・育休・短時間勤務等の充実と、職場復帰しやすい仕組み作り。



最後に、女性が社会で活躍するために必要なことは何だと思うか、聞いてみた。回答は、15個の選択肢のなかから当てはまるものを最大3個選んでもらった。

20～39歳未婚女性のなかで最も支持率が高かったのが「職場の産休・育休・短時間勤務等の充実」で42.4%、2番目が、「子育て後に元の会社に復帰できる仕組み」で37.0%、3番目が「出産・子育てに対する職場の理解」で29.6%だった。一方、40～65歳既婚子持ち女性のなかで最も多かったのが「子育て後に元の会社に復帰できる仕組み」で40.1%、2番目が「職場の産休・育休・短時間勤務等の充実」で36.8%、そして3番目が「出産・子育てに対する職場の理解」で36.7%だった。「待機児童の解消」は、両グループとも第4位だった。以降は、「在宅勤務ができる仕組み」や「出産・子育てに対する旦那の理解・育児参加」、「女性の給与・待遇の向上」などが挙げられた。「女性役員・管理職の増加」「女性政治家の増加」という選択肢もあったが、どれも支持率は3%に満たなかった。女性が考える「女性が社会で活躍するために必要なこと」とは、妊娠・子育て中も融通を利かせながら働ける仕組みや、一度職場を離れても復帰しやすい仕組みを作ること、そしてそれに対して職場が理解を示すことであることが分かった。

子どもを産んだ後も仕事をしたい、という女性の半数以上は、「出産したら一旦仕事をやめ、子育てが落ち着いたら再び働きたい」、つまり子どもが小さいうちは育児に専念したい、という人たちだ。そのような人たちにとって、最長でも子どもが1歳半になるまでしか取得できない育児休業では不十分だろう。女性の活躍を推していく上では、子どもを育てながら働けるよう支援するだけでなく、一度職場を離れた後再度復帰しやすい仕組みを作ることが、必要不可欠なのだろう。

オウチーノ総研：<http://corporate.o-uccino.jp/research-o/>